

「マレーシアの教師養成プログラムにおけるポートフォリオ評価 ーその意義と現状ー」

マレーシア国際言語教員養成所〈IPBA〉講師
Ang Chooi Kean ackean05@gmail.com

キーワード: 教師養成、ポートフォリオ、教師成長、自己教育力

1. マレーシア国内日本語教員養成プログラムの概要

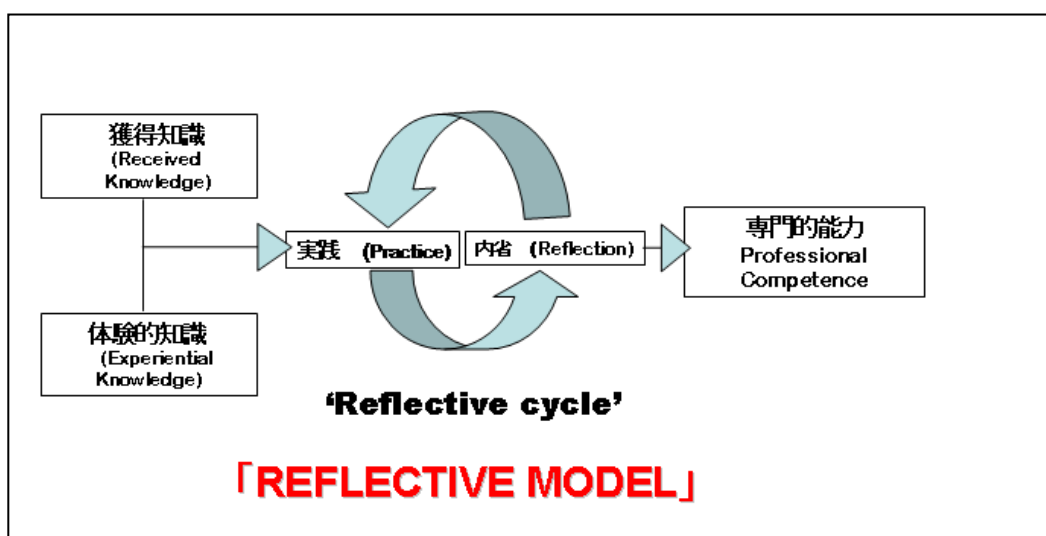
- プログラムの内容は日本語の基礎力を養成する12週の予備コース、日本語の初中級の能力とともに日本語の教授能力の養成を目指す1年間の *Teaching of Japanese as a Foreign Language* (TJFL) コース、終了後、所属校で日本語を教えながら、さらに日本語力と教授能力の向上を目指し、所属校での日本語教授の支援を目標とする1年間のインターンシップ・プログラム、それに続く日本での immersion コース(国際交流基金日本語国際センターでの2ヶ月の短期研修コース)から成る。
- 全体的な目標と学習内容として、(1) 日本語、(2) 日本文化と異文化理解、(3) 教授法に分けられる。

2. ポートフォリオ評価導入の背景

(1) 「考える力」と「内省力」を持つ教師養成への対応

- マレーシア国の教育理念では、「考える力」即ち「批判的力」と「創造力」が重視されている。
- マレーシアにおける教師養成プログラムでは、「内省的実践家 (REFLECTIVE PRACTITIONER)」モデルが採用されている。(図1を参照)

〈図1〉内省的実践家 (REFLECTIVE PRACTITIONER) モデル



(2) 限られたコース期間を効果的に利用するための対策

- 具体的で現実的な短期目標と長期的な目標を持たせ、学習の過程・達成度を意識させる。
- 授業中だけでなく、授業外の時間を利用し、自律的な学習を促す。
- 「学習者」としての学習と同時に「日本語教師」養成における具体的な目標設定とその目標の達成を効果的に支援する。
⇒「自己モニター」の訓練・機会
- 研修期間内だけではなく、日々の日本語教育実践の中で継続的な自己研修や自律学習を促し、教師の自律性を育てる。
⇒「自己教育力」のメカニズム
- 意識的に日本語教師としての経験・実践的な知識や能力を身につけていくために、自身の成長過程に気づき、実践に対する改善とさらなる教師の成長の方向を示す。
⇒「教師成長・発達」の道
- 学習・実践の中で、同期生と得た経験や知識や能力・技術を共有させ、問題解決に協働的に取り組み、日本語学習・日本語教師としての仕事への意欲を保つ。
⇒「協働の教育・相互学習」の促進

3. ポートフォリオ評価実践の概要

(1) ポートフォリオの種類と対応している学習内容

- ラーニングポートフォリオ：日本語の学習
- カルチャーポートフォリオ：日本文化の体験学習と異文化理解、自身が選択した文化トピックに関する情報収集と適切な授業やクラブ活動の計画
- ティーチングポートフォリオ：仕事の現場で必要とされる環境づくりなどの技術・能力と教授法

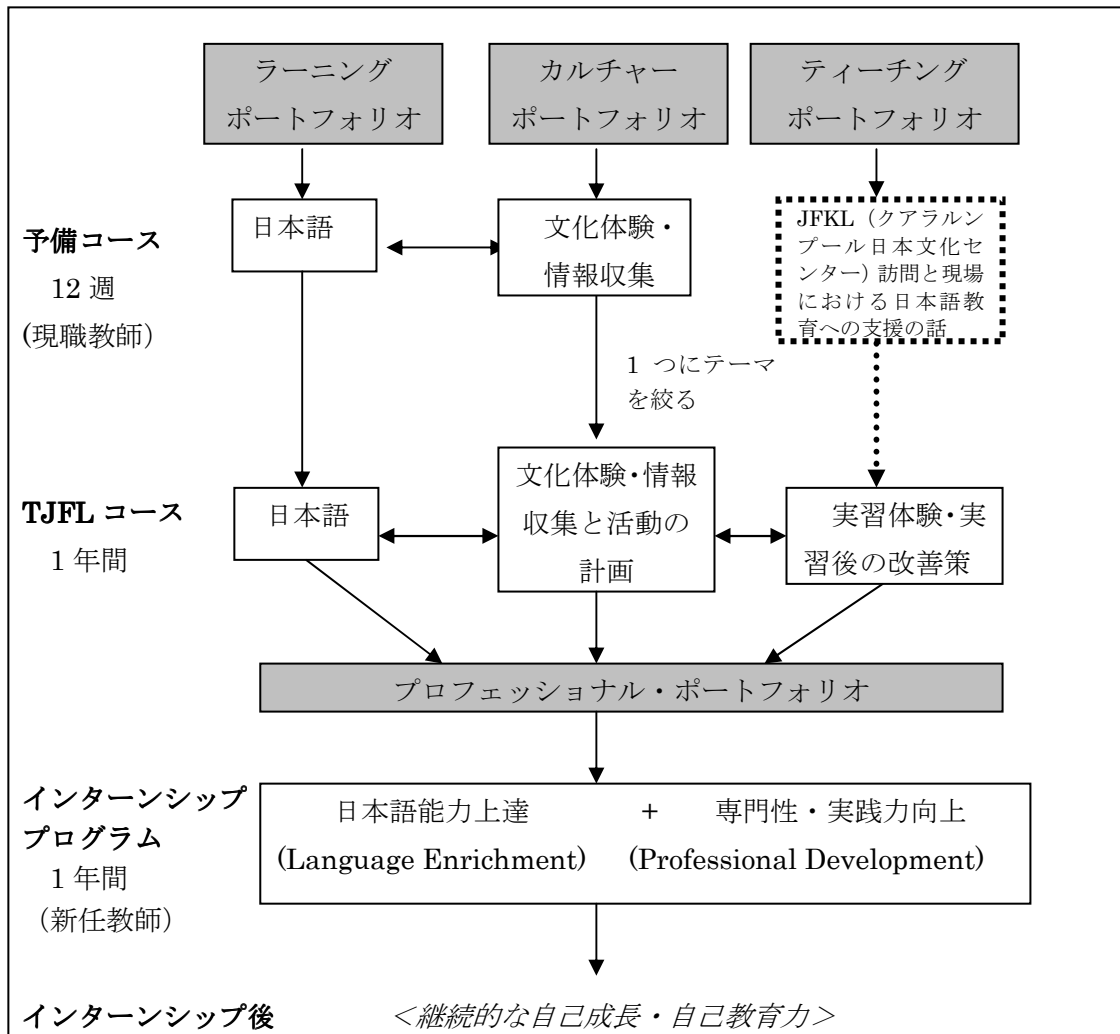
(2) 各コースとポートフォリオの関係 (図 2 を参照)

(3) 評価についての捉え方

<表 1> 評価の捉え方

学習過程の評価	学習成果の評価
<学期中の形成的な評価> ワーキング・プロセスポートフォリオ作成	<学期末の総括的評価> SHOWCASE・パフォーマンスポートフォリオへ再構成
次へつなぐ・FEEDFORWARD 時系列の収集物 学習過程中的の問題意識・自分の学びの改善 自分の成長の確認・自己評価	ある期間内の学び・成果確認と再構成 取捨し、選択した物・再構成物 ポートフォリオの発表・展示会 自己の成長の再確認・自己評価・相互評価 引き継ぎ・IPBA コース修了ポートフォリオ
<支援・モニタリング> カンファレンス	<支援・モニタリング> 展示会

<図2>各コースとポートフォリオの関係



(4) ポートフォリオの内容のアウトライン (ファイリング順)

ラーニングポートフォリオ

- ・ 個人情報
- ・ 言語の学歴
- ・ 各週のジャーナル
-学習に対する振り返り³
- ・ CDS¹に基づく自習の記録とその評価基準 (ループリック) <2008年より実施>
- ・ 選択した収集物
- ・ まとめ (内省レポート)⁴

カルチャーポートフォリオ

- ・ 個人情報
- ・ 日本文化の知識・経験
- ・ 課題として与えられた文化について収集した情報
得た情報に関する感想³
- ・ 日本文化体験の記録
体験の振り返り³
- ・ 選択した収集物
- ・ まとめ (内省レポート)⁴

注1.CDS : Can-do Statement、到達目標を記述したもの

ティーチングポートフォリオ

- 個人情報
- 学校の日本語教育の情報と環境
- 教室言葉のインベントリー (inventory)
- シラバスとカリキュラム
 - 学習目標のリスト
 - プラクティカム² ・教育実習中自作した学習者の自己評価 チェックリスト)
 - プラクティカム・教育実習の振り返り³
- 選択した収集物
 - 教案 (編集前<実習中作ったもの>と編集後<実習後改善したもの>)
 - 教材 (編集前と編集後)
 - テスト・試験問題 (編集前と編集後)
- まとめ (内省レポート)⁴

注2. プラクティカム：1年 TJFL コースの7月から8月まで 4週間中等学校での教育実習

注3 振り返り・感想： コース中学習過程の評価

注4 内省レポート：コースの終わりに当たる学習成果の評価

4. ポートフォリオの運用とその成果

(1) ポートフォリオの実際

*ラーニングポートフォリオの実例

- コースに対する参加者の目標・期待
- CDSに基づく自習の記録 (資料1 学習記録シートを参照) とその評価 (資料2の自習内容とループリックの例を参照) (2009年より実施)
- ジャーナルの内容
- 学習の達成度の評価 (資料3の自己評価チェックリストを参照)
- ポートフォリオ収集物の展示会とその評価 (資料4のポートフォリオ実施のスケジュールと資料5のループリックの例を参照)

(2) 成果

- 「内省能力」の育成・向上
- 「目標・過程・評価の一貫性」の重要性に対する気づきの促進。
- CDS・目標を達成するための「自己モニター」のツールの提供。
- 自分の学びを振り返り、自分なりに学習過程を評価できる「自己教育力」と、学習法を重視することを意識するとともに、「教師成長・発達」のメカニズムの提供。

- 「協働の教育・相互学習・学び合い」のための共通の道具の提供。

5. 課題と今後の計画・課題

(1) ポートフォリオ評価システムの改善の課題

- 目標設定 (CDS の作り方)
 - 12 週予備コースの学習内容と 1 年 TJFL コースとコース終了後 (TARGETED END-OF-COURSE REQUIREMENT) との関連付けが必要。
- モニタリング・システム (カンファレンス)
 - 短期間のコースで個別のカンファレンスを実施することが困難。
 - 学習過程を重視する学習法・ポートフォリオ作成に対する抵抗感がある。

* 「宿題」 vs 「ポートフォリオ作成」
- 自己・相互評価力
 - まず振り返る能力・内省力が不十分 → 内省の記述方法の指導が必要
 - 授業中や教科書に与えられた情報・知識などをそのまま学び込むのではなく、目的別に取舍選択をし、自分の達成度が分かり、問題意識が生まれ、そこから自分の考えをまとめ、学習進行・次へと進めていく能力の伸長。

(2) 今後の計画

- IPBA コースにおいて
 - 講師の間とコース参加者との目標の共有 (日本語教師の資質に関して)。
 - CDS に基づく各授業の計画と運用とその CDS の達成の評価法の工夫。
- 教育現場において
 - IPBA コース終了後、ポートフォリオ作成の継続によって、自己教育を高めていく契機となる。そのために日本語教師としての成長について教育現場・学校におけるサポートが不可欠。
 - CDS 上の TARGETED END-OF-COURSE REQUIREMENT の明確化のために、IPBA を越えて、現場における日本語教師の「資質」の共通認識が必要。

(3) 今後の課題

- 「ポートフォリオ」の作成継続のメカニズム
多忙な教育現場において、自分の「教師成長」と「自己教育」を重視していても、実際に「ポートフォリオ」を継続的に作成していく価値・報酬が必要。(例、教師ポートフォリオ大会や各地域におけるポートフォリオ発表会など)。

<参考文献>

- 青木直子（2006）「KICC 日本語ボランティア ステップアップ講座」、『自ら学ぶためのポートフォリオ（学習履歴）作成』
- <<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~naoko/jlp/pdf/handouts/KICC.pdf>>2008年6月30日参照
- アン チュイ・キエン（2007）「マレーシア国内の日本語教員養成プログラムにおけるプロフェッショナル・ポートフォリオ実践の有効性—新任日本語教師の自己成長—」（2007年12月9日にマラヤ大学予備教育部日本留学特別コース（AAJ）25周年記念日本語教育セミナー・「マレーシアにおける日本語教育」で口頭発表）
- 高浦勝義（1998）『総合学習の理論・実践・評価』黎明書房
- 寺西和子（2003）『確かな力を育てるポートフォリオ評価の方法と実践』、黎明書房
- 春原憲一郎、横溝紳一郎他（2006）『日本語教師の成長と自己研修—新たな教師研修ストラテジーの可能性をめざして』、凡人社
- 横溝紳一郎（1999）「学習者参加型の評価法」『平成11年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、日本語教育学会
- Campbell, Dorothy M, et. al. (2004). *How To Develop A Professional Portfolio: A Manual for Teachers*. Boston, MA: Pearson Education, Inc.
- Danielson, Charlotte & Abrutyn, Leslye. (1997) *An Introduction to Using Portfolios in the Classroom*. Virginia USA: ASCD.
- Wallace, Michael J. (1991) *Training Foreign Language Teachers: A Reflective Approach*, Cambridge University Press.

<資料 1> 学習記録シート

DATE OF ENTRY (エントリーの日付) : _____

GOAL-SETTING STATEMENT: 目標設定の記述

(Personal description of the focus of item/entry)

(アイテム・エントリーの焦点についての説明)

REFLECTION STATEMENT 内省の記述

(Self Assessment: A summary of the documents collected which portrayed learning)

(学習に関しての収集の資料に対する自己評価)

CAPTION STATEMENT (収集物についての記述)

(Statements attached to each document that describe the followings:

1. What is it? 2 Why it is evidence? 3 What it is evidence of?)

(1. 何ですか 2. どうして証拠として選んだか 3. 何を証拠しているか という点についての説明文)

AUTHENTIC ASSESSMENT & EVALUATION STATEMENT: (評価についての記述)

(Suggestions on how the selected evidence are to be assessed and evaluated i.e. assessment & evaluation criteria which demonstrated the learning growth and achievement)

(選ばれた証拠や収集物に対して、学習成長と達成をはかるための評価基準の提案)

自習内容：

CDS : 紹介や日常・基本的な挨拶、いとまごいの表現を使うことができる。

タスク : 自己紹介 (『教科書を作ろう』の活動 1.6) (初級下)

目的 : 自己紹介をすることができる。

- 手順** :
1. 自己紹介の構成を見ながら、自分の自己紹介について準備をする。
 2. 自己紹介をする。
 3. 録音をする。
 4. チェックリストを使って、自己評価をする。

自己紹介の構成：

はじめのあいさつ：「はじめまして」
↓
自分の名前を言う： _____
↓
学校、学年などを言う： _____
↓
好きなもの、好きなこと、趣味などを言う： _____
↓
終わりのあいさつ：「どうぞよろしくおねがいします。」

話すタスクのルーブリックの例：

レベル/ CRITERIA	1	2	3	4
タスクの完成 Task Completion	不適切な発話が多く、タスクの完成はできなかった。 Minimal attempt to complete task and/or responses frequently inappropriate.	ほとんどの発話が適切だったが、不十分なところがあった。タスクの完成は不十分である。 Partial completion of the task, responses mostly appropriate yet undeveloped.	発話は適切であり、よくまとめられた。タスクを完成した。 Completion of the task, responses appropriately and adequately developed.	発話が適切で、詳細な説明がついている。非常によくタスクを完成した。 Superior completion of the task, responds with elaboration.
理解度 Comprehensibility	発話が分かりにくかった。 Responses barely comprehensible	発話がかたいが、聞き手に訳してもらった必要があった。 Responses comprehensible, requiring minimal interpretation	発話が分かりやすかった。媒介語の使用は少なかった。 Responses comprehensible, requiring minimal interpretation	発話が明らかに分かりやすかった。 Responses readily comprehensible
流暢さ Fluency	発話が中断したり、長いポーズが入って言いよんだり、考えがまとまっていなかった。 Speech halting and uneven with long pauses and/or incomplete thoughts	発話はゆっくりであり、よくポーズが入ったり、考えのまとまらなかったのが少しあった、あるいはなかった。 Speech slow and/or with frequent pauses, few or no incomplete thoughts.	発話にはためらいがあったが、考えがまとまるまでに発話し続けた。 Some hesitation but manages to continue and complete thoughts	発話のはためらいが少なく連続である。 Speech continuous with little stumbling.
発音 Pronunciation	間違いが多くて、コミュニケーションに障害を与えた。 Frequent errors, little or no communication	コミュニケーションには問題がたまにあった。 Occasional problems with communication	コミュニケーションに障害がなかった。 No interference with communication	ぜんぜん問題なく、コミュニケーションができた。 Communication with ease
語彙 Vocabulary	不適切であり、不正確な言葉を使用した。 Inadequate and/or inaccurate use of vocabulary	やや不適切であり、不正確な言葉を使用した。 Somewhat inadequate and/or inaccurate use of vocabulary	適切で正確に言葉を使用した。 Adequate and accurate use of vocabulary	豊かに言葉を使ったり、より詳細に説明する努力がよくあった。 Rich use of vocabulary with frequent attempts at elaboration

<資料3> 学習の達成度の評価用の自己評価チェックリストの例

Use the following symbols:

In **columns 1 and 2**

In **column 3**

○ I can do this under normal circumstances

! This is an objective for me

◎ I can do this easily.

!! This is a priority for me

TARGETED END OF COURSE REQUIREMENT	On my own	By instructor/classmate	My objective/priority	Notes/comments
TARGETED OVERALL OBJECTIVE				
Can carry out required preparation etc for social interaction with Japanese school 日本の学校と交流したり、その準備をしたりできる				
I can describe, ask and answer various questions in areas of immediate need or on familiar topics. 身近な話題（自己紹介など）について話したり質問したりできる。				
I can pronounce names in Japanese (Katakana). 名前を日本語（カタカナ）で発音することができる				
I can introduce myself (name, place of origin, age etc) 簡単な自己紹介ができる（名前、出身、年齢など）				
I can use basic greeting and leave-taking expressions. 基本的な挨拶ができる				
I can describe and enquire about oneself using simple expressions 自分自身について簡単な表現を使って話したり質問したりできる				
I can explain my own hope(s), plan(s) as well as their reason(s)/rationale(s) 自分の希望や計画その理由について説明することができる				

<資料5> ポートフォリオ：選択した収集物の展示会の評価用ルーブリックの例

DEFINITION: Student explains how the specific work items selected support the three important dimensions of a portfolio: Goal Setting, Growth and Achievement, and Reflection/Self Assessment.

Level Of Achievement	Description
Extended Abstract (4) Distinguished	All relevant items included. Clear, definite connection between items and one or more dimensions. Items serve excellent supporting evidence.
Relational (3) Proficient	All relevant items included. Connection shown between items and portfolio dimensions. Items do serve as supporting evidence.
Multistructural (2) Apprentice	All relevant items included. Connection between items and dimensions not completely clear. Items may serve as supporting evidence.
Unistructural (1) Novice	Some relevant items missing. Items included seem unrelated to dimensions and provide little or no supporting evidence.
Prestructural (0) Unacceptable	No items included or more than one item are missing

＜資料4＞研修とポートフォリオ評価支援システムの流れ・スケジュールの例
1 Year Teaching of Japanese as a Foreign Language Course & Portfolio Conferencing Schedule

研修内容 COURSE	オリエンテーション (ORIENTATION) 第1週目 (Week 1)		第1学期 (SEMESTER 1) 1月～5月		第2学期 (SEMESTER 2) 6月～11月		インターンシップ前 (PRE-INTERNSHIP) (1月上旬)	
	日本語授業 (PROFICIENCY) 日本文化体験 (CULTURAL EXPERIENCE) 教授法の授業 (METHODOLOGY)	文法、会話、漢字、読解、聴解 (技能別) 文化講義・体験 異文化理解 シラバス・教科書分析 技術別教授法 授業計画 評価法	文化の教え方 選択した文化の活動	文化の教え方 選択した文化の活動	文化の教え方 選択した文化の活動	文化の教え方 選択した文化の活動	文化の教え方 選択した文化の活動	文化の教え方 選択した文化の活動
カンファレンス CONFERENCE	情報提供 (INFORMATION)	案内・ガイドライン (Guidelines) 既習内容の記録 Records of content learnt (12週コースの振り返り) (12 Week Reflection)	コース学習・活動の記録 (学習記録用紙を利用する) Records of learning/ activities *Use Entry Form	コース学習・活動の記録 (学習記録用紙を利用する) Records of learning/ activities *Use Entry Form	コース学習・活動の記録 (学習記録用紙を利用する) Records of learning/ activities *Use Entry Form	コース学習・活動の記録 (学習記録用紙を利用する) Records of learning/ activities *Use Entry Form	コース学習・活動の記録 (学習記録用紙を利用する) Records of learning/ activities *Use Entry Form ⇒達成レベルの記録 (Records of level achieved)	コース学習・活動の記録 (学習記録用紙を利用する) Records of learning/ activities *Use Entry Form ⇒達成レベルの記録 (Records of level achieved)
	目標設定 (GOAL SETTING) (自己評価) (ODS SELF-ASSESSMENT CHECKLIST)	目標設定の記述 (Goal Setting Statements)	1月 前半の目標設定の記述 1st Half Goal Setting →振り返り (Review/Reflection)	6月 後半の目標設定の記述 2nd Half Goal Setting →振り返り (Review/Reflection)	7月上旬 Early July	10月下旬 End of Oct.	7月上旬 Early July	10月下旬 End of Oct.
カンファレンス (CONFERENCE) (面談・相談) (Interview/Discussion)	目標設定 (GOAL SETTING) (自己評価) (ODS SELF-ASSESSMENT CHECKLIST)	目標設定の記述 (Goal Setting Statements)	1月 前半の目標設定の記述 1st Half Goal Setting →振り返り (Review/Reflection)	6月 後半の目標設定の記述 2nd Half Goal Setting →振り返り (Review/Reflection)	7月上旬 Early July	10月下旬 End of Oct.	7月上旬 Early July	10月下旬 End of Oct.
展示 (EXHIBITION) (動機付け・シェアリングのため) (Motivation/Sharing)	展示 (EXHIBITION) (動機付け・シェアリングのため) (Motivation/Sharing)	展示 (EXHIBITION) (動機付け・シェアリングのため) (Motivation/Sharing)	5月中旬 展示会 Mid-May Exhibition	11月中旬 展示会 Mid November Exhibition	11月中旬 展示会 Mid November Exhibition	11月中旬 展示会 Mid November Exhibition	11月中旬 展示会 Mid November Exhibition	